

高等学校「課題発見・解決学習」

実践事例集



平成 30 年 3 月

広島県教育委員会

はじめに

近年、私たちを取り巻く社会構造や雇用環境は、様々な要因により、大きく、急速に変化しています。そして、今、私たちの目の前にいる子供たち、そして、これから誕生する子供たちが生きていく時代は、予測困難な、これまで以上に厳しい挑戦の時代を迎えると予想されています。

このような時代には、学んだ知識や技能を定型的に適用して問題解決する力のみならず、自ら深く考え、知識や情報を統合して新しい価値を創り出す力、さらにはそのために多様な他者と協働できる力が求められます。

これらの状況を踏まえ、県教育委員会では、グローバル化する21世紀の社会を生き抜き、社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促す新たな教育モデルの構築を目指し、平成26年12月「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定しました。

このアクション・プランの具体的な施策の一つの柱が、児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究的な活動を行っていく学習である「課題発見・解決学習」であり、平成30年度は、この「課題発見・解決学習」の全県展開を目指しています。

「課題発見・解決学習」の全県展開とは、全ての学校で、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間をはじめ、各教科等において「課題発見・解決学習」の取組の実践がされている状態です。

県立高等学校においては、「課題発見・解決学習」を取り入れた授業づくりが組織的・計画的に実践されるよう、平成27年度から3年間、「学びの変革」パイロット校である「探究コアスクール」及び「活用コアスクール」を指定し、「課題発見・解決学習」に関するカリキュラム等を研究開発するとともに、「学びの変革」を推進する中核教員を養成して、成果等の普及を進めてまいりました。

また、平成28年度から2年間は、「学びの変革」パイロット校が開発したカリキュラムを基に、各校でカリキュラムの実践・改善を図るリーダー教員を養成する「実践推進リーダー養成研修」を実施しました。

この間、各校は、生徒実態等を基に育成すべき資質・能力を設定し、開発した年間評価計画などのカリキュラムの実践・検証を通して、「課題発見・解決学習」を取り入れた「主体的な学び」を促す授業づくりの特色ある取組を進め、校内で授業改善の議論が活発に行われるようになるなど、一定の成果が見られました。

本事例集は、これらの取組の集大成として、「課題発見・解決学習」の実践をまとめ、平成30年度の「課題発見・解決学習」の全県展開、そして生徒の「主体的な学び」の実現に資することを目指し作成したものです。

第1章の各事例は、広島大学大学院教育学研究科の先生方からの御指導を得て、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語のそれぞれの教科を担当する中核教員が中心となって実践した「課題発見・解決学習」の授業の実際をまとめたものです。各校の授業改善に資するよう、授業のねらいや学習過程だけでなく、「課題発見・解決学習」のポイントとなる、生徒が自ら課題を見いだすことができるような「教師の働きかけ」と、学習の結果に加えて、学習の過程で学んだことにも着目する「振り返り」の2点に焦点を当てた事後の検証・考察とともに、その改善案を示すこととしました。

また、第2章では、各校において実践された必履修教科の事例の中から、「課題発見・解決学習」の推進に参考となるものを取り上げました。第1章と同様に教師と生徒のやりとりを事前に想定することや実践した結果を振り返り、その改善案を考察することを重視している点に特徴があります。

本事例集が有効に活用され、各校での「課題発見・解決学習」を取り入れた授業づくりの一助となることを期待しております。

最後に、本書の作成に際して、御指導いただきました広島大学大学院教育学研究科の先生方をはじめとして、作成に御協力くださった方々に心から感謝の意を表します。

平成30年3月

目次

- ◆本事例集における各教科の「課題発見・解決学習」の考え方……P. 1
- ◆各学校における活用に当たって……P. 2

第1章 「課題発見・解決学習」の実践における授業改善に向けた考察

国語	P. 4
地理歴史・公民	P. 7
数学	P. 10
理科	P. 13
外国語	P. 16

第2章 各教科等における「課題発見・解決学習」の事例

国語	P. 20
地理歴史・公民	P. 22
数学	P. 24
理科	P. 26
保健体育	P. 28
芸術	P. 30
外国語	P. 32
家庭	P. 34
情報	P. 36
総合的な学習の時間	P. 38